

## 外科領域における皮膚軟部組織感染症に対する T-3262 の臨床的検討

新井健之・露木 健・横山 勲・中津喬義・斉藤敏明\*\*

川崎市立川崎病院外科\*

(\*\*: 現川崎市立井田病院外科)

外科領域において、新しいピリドンカルボン酸系合成経口抗菌剤 T-3262 の臨床的検討を行った。

外科的感染症 24 例に対する臨床効果は、著効 3、有効 16、やや有効 4、無効 1 で、有効率は 79.2% であった。この中で、感染性粉瘤、膿瘍に対する有効率はそれぞれ 100% (7/7)、80.0% (8/10) と良好であった。

分離菌別の臨床効果は、グラム陽性球菌では 50.0% (4/8)、グラム陰性桿菌では 66.7% (2/3)、嫌気性菌では 86.4% (19/22) の有効率であった。また、分離菌別の細菌学的効果 (不明を除く) は 100% の消失率であった。

本剤投与に起因すると思われる自他覚的副作用は認められなかったが、臨床検査値異常として GOT、GPT の上昇が 2 例に認められた。

**Key words:** T-3262, 外科的感染症, 臨床効果, 細菌学的効果

T-3262 は富山化学工業(株)総合研究所において開発された新しいピリドンカルボン酸系の経口用合成抗菌剤で、Fig.1 の構造式を有している。

本剤は *in vitro* においてはグラム陽性菌をはじめ陰性菌、嫌気性菌に対し広範囲な抗菌スペクトルを示し、特に *Staphylococcus aureus* (*S. aureus*), *Streptococcus*, *Enterococcus*, ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌, *Peptostreptococcus*, *Bacteroides fragilis* (*B. fragilis*) に対して従来の同系薬剤より強い抗菌力を示す<sup>1)</sup>。また、本剤を経口投与した場合、空腹時より食後の方が血中濃度が高く、150 mg 食後経口投与の際の最高血中濃度は 1.9 時間後で 0.55  $\mu\text{g/ml}$  に達し、半減期は約 4.6 時間である。排泄は主に尿中で、12 時間までの累積排泄率は 42.8% である<sup>1)</sup>。

今回、皮膚、軟部組織感染症を主とする外科領域感染症に本剤を投与し、その有効性、安全性について検討した。

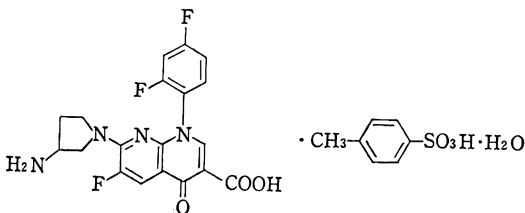


Fig. 1. Chemical structure of T-3262.

## I. 対象と方法

昭和 61 年 12 月から昭和 62 年 3 月までの間に当科を受診した外科領域感染症 26 例を対象に T-3262 の臨床効果、副作用等について検討した。疾患の内訳は感染性粉瘤 7 例、膿瘍 11 例 (内、肛門周囲膿瘍 4 例)、爪周囲炎 2 例、癰、蜂窩織炎、乳腺炎、乳房静脈炎、縫合糸膿瘍、感染性咬創各 1 例である。26 例中、男性 16 例、女性 10 例で、年齢は 19 歳～79 歳 (平均 47.2 歳) であった。T-3262 の投与量はすべて 1 回 150 mg、1 日 3 回で、投与期間は 2～14 日間、総投与量は 0.9～6.3 g であった。

臨床効果の判定は、発赤、腫脹などの臨床症状の推移や分離菌の消長などを総合的に勘案し、主治医の判断により、著効、有効、やや有効、無効の 4 段階に判定した。また、細菌学的効果の判定は、投与前の分離菌の消長により、消失、菌交代、不変、一部消失、不明の 5 段階に判定した。本剤投与後に排膿が陰性化し、菌検索ができない場合は、細菌学的には消失と判定した。

## II. 臨床成績

本剤投与症例の一覧を Table 1 に示した。症例 18 の肛門周囲膿瘍は重症例で、本剤投与後臨床評価に不適当な症例と判断し、2 日で投与を中止したために臨床効果の判定より除外した。また、症例 21 の爪周囲炎は、患者が指定の来院日に受診しなかったために効果判定より除外した。よって臨床効果の判定は 24 症例を対象とし

Table 1-1. Surgical infections treated with T-3262

Case (Age, Sex)	Diagnosis	Treatment (mg × times × days)	Total dose (g)	Organisms	Effect		Side effects	Remarks
					Clinical	Bacteriological		
1 N. S. (35y, M)	Infectious atheroma (Back)	150 × 3 × 7	3.15	<i>S. hominis</i> <i>P. magnus</i> <i>P. asaccharolyticus</i>	Excellent	Eradicated	—	Incision Drainage
2 E. I. (52y, F)	Infectious atheroma (Back)	150 × 3 × 5	2.25	<i>P. magnus</i>	Good	Unknown	—	
3 K. M. (47y, M)	Infectious atheroma (R-gluteal region)	150 × 3 × 3	1.35	<i>B. thetaiotaomicron</i> <i>P. prevotii</i>	Good	Eradicated	—	Incision Drainage
4 K. O. (56y, M)	Infectious atheroma (L-posterior region of the auricle)	150 × 3 × 7	3.15	<i>P. acnes</i>	Good	Eradicated	—	Incision Drainage
5 Y. M. (39y, M)	Infectious atheroma (Nuchal region)	150 × 3 × 3	1.35	<i>P. acnes</i>	Good	Unknown	—	Incision Drainage
6 M. K. (38y, M)	Infectious atheroma (R-axillary fossa)	150 × 3 × 5	2.25	<i>P. magnus</i> <i>P. asaccharolyticus</i>	Good	Unknown	—	Incision Drainage
7 S. K. (53y, M)	Infectious atheroma (R-shoulder)	150 × 3 × 5	2.25	<i>S. epidermidis</i> <i>S. hominis</i> <i>P. magnus</i>	Good	Unknown	—	Incision Drainage
8 C. N. (51y, F)	Abscess (R-subareola)	150 × 3 × 10	4.5	Unknown	Good	Unknown	—	
9 S. H. (43y, F)	Abscess (L-subareola)	150 × 3 × 5	2.25	<i>B. bititus</i> <i>P. magnus</i> <i>P. micros</i> <i>P. granulatum</i>	Excellent	Eradicated	—	
10 R. K. (53y, M)	Abscess (Face)	150 × 3 × 7	3.15	Unknown	Good	Unknown	GOT ↑ GPT ↑	
11 M. T. (25y, M)	Abscess (Face)	150 × 3 × 4	1.8	<i>S. morbillorum</i>	Excellent	Eradicated	—	Incision Drainage

Table 1-2. Surgical infections treated with T-3262

Case (Age, Sex)	Diagnosis	Treatment (mg × times × days)		Total dose (g)	Organisms	Effect		Side effects	Remarks
						Clinical	Bacteriological		
12 A. K. (19y, F)	Abscess (L-femur)	150 × 3 × 5		2.25	<i>P. magnus</i> <i>P. asaccharolyticus</i>	Good	Eradicated	—	Incision Drainage
13 H. T. (60y, M)	Abscess (L-crur)	150 × 3 × 14		6.3	<i>S. simulans</i> <i>E. faecalis</i>	Fair	Eradicated	—	
14 F. K. (36y, M)	Abscess (R-auricle & posterior region of the auricle)	150 × 3 × 4		1.8	Negative	Good	Unknown	—	
15 S. A. (59y, M)	Abscess (Periproctal region)	150 × 3 × 11		4.95	<i>E. coli</i> <i>B. fragilis</i>	Good	Eradicated	—	Incision Drainage
16 M. H. (38y, M)	Abscess (Periproctal region)	150 × 3 × 10		4.5	<i>E. coli</i> <i>P. magnus</i>	Good	Eradicated	—	
17 S. E. (64y, F)	Abscess (Periproctal region)	150 × 3 × 4		1.8	<i>E. coli</i> <i>P. anaerobius</i> <i>F. necrophorum</i>	Fair	Unknown	—	Incision Drainage
18 K. H. (62y, M)	Abscess (Periproctal region)	150 × 3 × 2		0.9	<i>B. fragilis</i> <i>B. thetaiotaomicron</i>	Unknown	Unknown	GOT ↑ GPT ↑	Incision Drainage
19 Y. I. (69y, M)	Furuncle (L-perineal region)	150 × 3 × 14		6.3	<i>P. magnus</i>	Fair	Eradicated	—	
20 K. K. (79y, M)	Phlegmon (R-dorsum of the foot & toe)	150 × 3 × 9		4.05	<i>S. aureus</i> <i>E. faecalis</i>	Poor	Unknown	—	
21 K. S. (21y, F)	Paronychia (R-index finger)	150 × 3 × 7		3.15	Unknown	Unknown	Unknown	—	
22 M. K. (60y, F)	Paronychia (R-middle finger)	150 × 3 × 7		3.15	Unknown	Fair	Unknown	—	

Table 1-3. Surgical infections treated with T-3262

Case (Age, Sex)	Diagnosis	Treatment (mg × times × days)	Total dose (g)	Organisms	Effect		Side effects	Remarks
					Clinical	Bacteriological		
23 Y. I. (32y, F)	L-mastitis	150 × 3 × 6	2.7	<i>S. equisimilis</i>	Good	Eradicated	—	Puncture
24 Y. S. (47y, F)	R-mammary phlebitis	150 × 3 × 13	5.85	Unknown	Good	Unknown	—	
25 K. I. (32y, F)	Stitch abscess of chest wall	150 × 3 × 4	1.8	Negative	Good	Unknown	—	Drainage
26 M. S. (58y, M)	Infectious bite wound (L-index finger)	150 × 3 × 10	4.5	Negative	Good	Unknown	—	

たが、安全性についてはこの2例を加えた26例について行った。

24症例全体の臨床効果は、著効3例、有効16例、やや有効4例、無効1例であり、有効率は79.2%であった。

疾患別の臨床効果をみると (Table 2), 感染性粉瘤7例では著効1例、有効6例の有効率100%, 膿瘍10例では著効2例、有効6例、やや有効2例の有効率80.0%であった。膿瘍の中、肛門周囲膿瘍3例では、有効2例、やや有効1例であった。その他会陰部癰、足背・趾蜂窩織炎、爪周囲炎の各1例では、それぞれやや有効、無効、やや有効であり、乳腺炎、乳房静脈炎、縫合糸膿瘍、感染性咬創の各1例はいずれも有効であった。

24例中20例に細菌学的検索を行い、17例から33株を分離した。分離菌別に臨床効果をみると、グラム陽性球菌8株では、著効1例、有効3例、やや有効2例、無効2例で、有効率は50.0%であった。やや有効と判定されたのは、*Staphylococcus simulans* (*S. simulans*)、*Enterococcus faecalis* (*E. faecalis*)、無効と判定されたのは、*S. aureus*、*E. faecalis* の各1株であった。グラム陰性桿菌としては *Escherichia coli* (*E. coli*) のみ3株であったが、有効2例、やや有効1例で、有効率は66.7%であった。今回、嫌気性菌は22株と最も多く分離されたが、著効7例、有効12例、やや有効3例、有効率86.4%と良好な成績であった (Table 3)。

細菌学的効果を分離菌の消長からみると、33株中消失21株、不明12株となり、不明を除いた消失率は100%という成績であった (Table 4)。

分離菌株に対するMICをT-3262, norfloxacin (NFLX), ofloxacin (OFLX), enoxacin (ENX) について測定した結果をTable 5に示した。(測定は三菱油化メディカルサイエンスにて実施した。) 接種菌量10<sup>6</sup> cells/mlでのT-3262の成績は、比較した3薬剤より優れたMICを示し、3.13 μg/ml以下に分布した。

副作用に関しては、アレルギー症状、神経症状、消化器症状などの自覚的な副作用はみられなかった。本剤投与前後の臨床検査の成績をTable 6に示したが、臨床検査値異常として、症例10および症例18にGOT・GPTの上昇が認められた。症例10 (GOT: 24→67, GPT: 33→85) は、投与前の検査値がほぼ1か月前の値で、投与後の検査値も投与終了後7日目の値であるが、本剤投与前後に他の薬剤の投与はなく、併用薬もないことから本剤と関係があるかもしれないと判断した。また症例18 (GOT: 16→145, GPT: 7→264) では投与後の検査値は本剤2日間投薬後2日目の値で、その間cefmetazolの静注を行っているが、本剤との関係があ

るかもしれないと判断した。両例とも程度は軽度であり、症例 10 はその後患者の来院がなく経過は不明であったが、症例 18 は、発現後 7 日目には GOT 23, GPT 37 とほぼ正常に復していた。

### III. 考 察

効果判定の対象とした外科的感染症 24 例に対する臨床効果は、著効 3, 有効 16, やや有効 4, 無効 1 で、有効率は 79.2% であった。やや有効あるいは無効と判

定された症例であるが、症例 13 の膿瘍（左下腿）では、排膿は本剤投与により速やかに消失したが、発赤、腫脹は本剤 14 日間の投薬後も消失に至らなかった。したがって、効果はやや有効と判定した。症例 17 の肛門周囲膿瘍では、本剤 4 日間の投薬により発赤、腫脹、排膿、疼痛などの症状はいずれも改善傾向を示したが、患者の全身状態が不良となり、内服が不能となったために本剤の投与を中止した。投薬を継続できたならば治癒した可能

Table 2. Clinical effects of T-3262

Effect	Excellent	Good	Fair	Poor	Total
Diagnosis					
Infectious atheroma	1	6			7
Abscess (Periproctal abscess)	2	6 (2)	2 (1)		10 (3)
Furuncle			1		1
Phlegmon				1	1
Paronychia			1		1
Mastitis		1			1
Mammary phlebitis		1			1
Stitch abscess		1			1
Infectious bite wound		1			1
Total	3(12.5%)	16(66.7%)	4	1	24
		19(79.2%)			

Table 3. Isolated organisms and clinical effects of T-3262

Effect	Excellent	Good	Fair	Poor	Total
Organisms					
<i>S. aureus</i>				1	1
<i>S. epidermidis</i>		1			1
<i>S. hominis</i>	1	1			2
<i>S. simulans</i>			1		1
<i>S. equisimilis</i>		1			1
<i>E. faecalis</i>			1	1	2
<i>E. coli</i>		2	1		3
<i>S. morbillorum</i>	1				1
<i>P. magnus</i>	2	5	1		8
<i>P. asaccharolyticus</i>	1	2			3
<i>P. anaerobius</i>			1		1
<i>P. micros</i>	1				1
<i>P. prevotii</i>		1			1
<i>P. acnes</i>		2			2
<i>P. granulosum</i>	1				1
<i>B. fragilis</i>		1			1
<i>B. bivius</i>	1				1
<i>B. thetaiotaomicron</i>		1			1
<i>F. necrophorum</i>			1		1
Total	8	17	6	2	33

Table 4. Bacteriological effects of T-3262

Effect Organisms	No. of strains	Eradicated	Persisted	Unknown
<i>S. aureus</i>	1			1
<i>S. epidermidis</i>	1			1
<i>S. hominis</i>	2	1		1
<i>S. simulans</i>	1	1		
<i>S. equisimilis</i>	1	1		
<i>E. faecalis</i>	2	1		1
<i>E. coli</i>	3	2		1
<i>S. morbillorum</i>	1	1		
<i>P. magnus</i>	8	5		3
<i>P. asaccharolyticus</i>	3	2		1
<i>P. anaerobius</i>	1			1
<i>P. micros</i>	1	1		
<i>P. prevotii</i>	1	1		
<i>P. acnes</i>	2	1		1
<i>P. granulosum</i>	1	1		
<i>B. fragilis</i>	1	1		
<i>B. bivius</i>	1	1		
<i>B. thetaiotaomicron</i>	1	1		
<i>F. necrophorum</i>	1			1
Total	33	21		12

性もあるが、4日間投薬時において効果判定を行ったのでやや有効とした。症例 19 の癰(左会陰部)では、発赤、腫脹が消失するまで 14 日間を要したことから、効果はやや有効とした。症例 20 の蜂窩織炎(右足背、趾)では、排膿が速やかに消失したにもかかわらず本剤投薬中に再度出現し、9 日間投薬後も消失には至らなかった。発赤、腫脹は消失したが、排膿が再度出現したので、効果は無効と判定した。症例 22 の爪周囲炎(右中指)では、本剤 7 日間投薬後も発赤が完全に消失には至らなかったもので、やや有効と判定した。やや有効の 4 例ではいずれも改善傾向がみられているが、治癒が遅延したためにやや有効の判定となった。この例の分離菌は *S. simulans*, *E. faecalis*, *E. coli*, *Peptostreptococcus magnus*, *Peptostreptococcus anaerobius*, *Fusobacterium necrophorum* 等で、T-3262 の MIC は 0.05 ~ 0.78  $\mu\text{g/ml}$  に分布していた。また、今回の本剤の投与量がすべて 1 回 150 mg, 1 日 3 回であったことから、1 回投与量を増量することにより早期に改善することも考えられ、今後は増量した場合の検討も必要と思われる。無効の例は、*S. aureus*, *E. faecalis* が分離され、MIC はそれぞれ 0.1  $\mu\text{g/ml}$ , 0.2  $\mu\text{g/ml}$  であった。この例も排膿は一時消失しており、発赤、腫脹は最終的に消失しているので、同様に投与量の増量等の検討も必要であったと思われる。

分離菌別の臨床的検討では、グラム陽性球菌、グラム陰性桿菌、嫌気性菌に対する有効率がそれぞれ 50.0% (4/8), 66.7% (2/3), 86.4% (19/22) であった。本剤が従来の薬剤よりも強い抗菌力を示すグラム陽性球菌に対する成績がやや低かったのは、それら分離菌に対する本剤の MIC および本剤の血中濃度等から考えると、今回の投与量に問題があったのではないかと考えられた。しかし、細菌学的検討では、不明の菌株が約 1/3 と多かったけれども、100% の菌消失率が認められた。

副作用に関しては、新薬シンポジウムでは消化器症状、アレルギー症状、神経症状等が 3010 例中 88 例に発現(発現率 2.9%)したと報告されている<sup>1)</sup>が、今回我々の検討では自覚的な副作用は 1 例も認められなかった。臨床検査値異常としては GOT, GPT の上昇が 2 例に認められたが、これは抗菌剤に見られる臨床検査値異常としては最も多くみられるものであって、本剤特有のものではない。したがって、安全性の面で本剤は特に問題はないと考えられるが、度々言及した様に今回の検討における投与量がすべて 1 回 150 mg であったので、増量した際の検討を行う必要があると考えられた。

#### 文 献

- 1) 第 34 回日本化学療法学会東日本支部総会, 新薬シンポジウム, T-3262, 東京, 1987

Table 5. Minimum inhibitory concentration of T-3262, norfloxacin (NFLX), ofloxacin (OFLX) and enoxacin (ENX)

(inoculum size :  $10^6$  cells/ml)

Case No.	Organisms	MIC ( $\mu$ g/ml)			
		T-3262	NFLX	OFLX	ENX
1	<i>S. hominis</i>	0.05	0.39	0.39	0.39
	<i>P. magnus</i>	0.39	25	3.13	25
	<i>P. asaccharolyticus</i>	0.39	25	25	12.5
2	<i>P. magnus</i>	0.39	25	3.13	25
3	<i>B. thetaiotaomicron</i>	1.56	>100	12.5	100
	<i>P. prevotii</i>	0.78	50	50	12.5
4	<i>P. acnes</i>	1.56	25	1.56	6.25
5	<i>P. acnes</i>	1.56	12.5	1.56	50
6	<i>P. magnus</i>	0.39	6.25	0.78	12.5
	<i>P. asaccharolyticus</i>	1.56	50	50	12.5
7	<i>S. epidermidis</i>	0.05	0.39	0.39	0.39
	<i>S. hominis</i>	0.1	0.39	0.39	0.39
	<i>P. magnus</i>	0.39	12.5	1.56	50
9	<i>B. bivius</i>	0.1	3.13	0.39	3.13
	<i>P. magnus</i>	0.1	3.13	0.39	3.13
	<i>P. micros</i>	0.2	3.13	1.56	25
	<i>P. granulorum</i>	0.78	25	6.25	6.25
11	<i>S. morbillorum</i>	0.78	12.5	0.78	6.25
12	<i>P. magnus</i>	0.1	6.25	0.78	3.13
	<i>P. asaccharolyticus</i>	0.39	12.5	12.5	12.5
13	<i>S. simulans</i>	0.05	0.39	0.39	0.78
	<i>E. faecalis</i>	0.39	3.13	1.56	3.13
16	<i>E. coli</i>	0.025	0.1	0.05	0.1
	<i>P. magnus</i>	0.2	3.13	0.78	25
17	<i>E. coli</i>	0.05	0.1	0.05	0.05
	<i>P. anacrobis</i>	0.39	12.5	0.78	25
	<i>F. necrophorum</i>	0.1	25	1.56	25
18	<i>B. fragilis</i>	1.56	50	3.13	25
	<i>B. thetaiotaomicron</i>	3.13	>100	12.5	50
19	<i>P. magnus</i>	0.78	100	100	25
20	<i>S. aureus</i>	0.1	12.5	0.78	12.5
	<i>E. faecalis</i>	0.2	3.13	3.13	3.13
23	<i>S. equisimilis</i>	0.39	6.25	1.56	12.5

Table 6-1. Laboratory findings before and after administration of T-3262

Case No.	Before (B) or After (A)	RBC (10 <sup>3</sup> /mm <sup>3</sup> )	Hb (g/dl)	Ht (%)	WBC (/mm <sup>3</sup> )	Plate (10 <sup>3</sup> /mm <sup>3</sup> )	GOT (IU)	GPT (IU)	AI-P (IU)	LDH (IU)	T-Bil (mg/dl)	BUN (mg/dl)	CRTNN (mg/dl)	CRP	ESR (1 hr)
1	B	498	14.2	44.6	7,100	27.2	17	12	110	251	0.79	9.8	0.9	-	10
	A														
2	B	(479)	(14.3)	(41.5)	(5,700)	(22.9)	(13)	(6)	(105)	(252)	(0.45)	(12.9)	(0.9)	(±)	(13)
	A	369	13.4	39.7	16,700	32.0	32	15	145	308				7+	60
4	B	442	13.3	40.4	4,900	21.1	19	14	74	284	0.38	12.4	1.1	-	11
	A														
5	B	485	14.6	43.3	6,700	32.4	11	18	99	283	0.45	13.5	1.0	-	11
	A	543	16.5	50.7	8,200	35.5	23	12	92	282	1.33	13.7	1.0	-	8
6	B	532	16.5	49.1	6,100	40.1	18	28	131	253	0.59	10.5	0.8	-	2
	A	516	16.4	50.8	7,800	31.4	14	17	139	290	0.69	12.6	1.0	+	3
8	B	410	12.6	36.4	6,500	24.1	12	10	134	258	0.60			±	18
	A														20
9	B	399	10.2	30.2	5,900	28.1	18	10	96	241	0.35	10.8	0.7	-	11
	A	411	10.4	31.0	4,900	28.3								-	9
10	B	435	13.3	39.8	4,400	26.2	24	33	142	299	0.46	12.9	1.1		
	A	402	11.7	36.3	5,000	23.6	67	85	157	313	0.47	16.2	0.9		
11	B	501	15.5	46.7	8,600	25.2	21	18	113	252	0.54			-	5
	A														
12	B	430	12.1	37.6	5,300	31.7	11	5	78	270	0.69	10.3	0.8	-	10
	A														
13	B	435	13.7	40.0	8,000	14.0	37	27	321	326	0.57			-	46
	A	(442)	(13.8)	(41.4)	(7,000)	(15.1)	(46)	(30)	(294)	(303)	(0.56)	(18.6)	(1.3)	(-)	(40)

( ) : During



Table 6-2. Laboratory findings before and after administration of T-3262

Case No.	Before (B) or After (A)		RBC (10 <sup>6</sup> /mm <sup>3</sup> )	Hb (g/dl)	Ht (%)	WBC (/mm <sup>3</sup> )	Plate (10 <sup>6</sup> /mm <sup>3</sup> )	GOT (IU)	GPT (IU)	Al-P (IU)	LDH (IU)	T-Bil (mg/dl)	BUN (mg/dl)	CRTNN (mg/dl)	CRP	ESR (1 hr)
14	B		445	14.6	43.4	7,400	17.8	13	9	80	339	0.70			±	4
	A		467	15.6	45.5	7,600	18.1	16	7	62	105	0.38			+	8
15	B		(398)	(12.3)	(36.1)	(6,900)	(51.4)	(19)	(15)	(167)	(279)	(0.45)	(11.6)	(0.8)	(3+)	(22)
	A		410	12.9	37.4	7,400	42.0	18	10	120	246	0.43	16.0	0.9		
16	B		508	14.8	45.2	7,200	25.9	24	14	102	224	0.70	15.1	1.0	+	5
	A		503	15.4	44.7	6,200	28.6	27	39	108	211	0.49	13.1	1.0	-	3
17	B		419	12.4	35.7	16,900	42.1	25	20	158	287	0.52	12.4	0.6	6+	45
	A		368	10.8	31.5	8,600	34.4	37	25	121	403	0.37	11.9	0.7	4+	43
18	B		432	14.3	42.7	15,700	21.3	16	7	88	282	0.80	27.7	1.4	6+	56
	A		388	12.6	37.7	12,700	20.6	145	264	180	292	0.33	21.1	1.2	5+	
19	B		(395)	(12.7)	(37.2)	6,500	(25.5)	(29)	(13)	(121)	(462)	(0.34)	(18.4)	(0.9)	+	
	A		369	10.6	31.5	5,800	24.0	14	5	99	265	0.48	19.3	1.0	(+)	45
20	B		429	13.4	39.0	5,900	30.2	18	8	56	86	0.79	11.9	0.8	-	14
	A		391	12.3	36.0	2,800	24.9	19	11	68	345	0.30	13.2	0.7	-	15
23	B		389	11.5	33.9	11,600	27.6	55	52	229	248	1.19	9.3	0.7	+	38
	A		342	10.0	30.0	3,700	31.9	18	15	162	229	0.32	11.6	0.6	-	55
24	B		444	14.2	42.2	7,900	29.5	15	11	107	212	0.53	13.8	0.9	-	8
	A		433	14.0	40.9	3,600	26.8	17	8	95	204	0.25			-	15
25	B		459	13.2	38.9	7,600	31.4	14	8	88	237	0.56	11.1	0.8	±	17
	A		(492)	(14.9)	(44.8)	14,000	(20.8)	(20)	(29)	(120)	(317)	(0.69)	(13.0)	(1.1)	±	21

( ) : During

## T-3262 IN SKIN AND SOFT-TISSUE INFECTIONS IN THE SURGICAL FIELD

TAKEYUKI ARAI, KEN TSUYUKI, ISAO YOKOYAMA, TAKAYOSHI NAKATSU  
and TOSHIAKI SAITO\*

Department of Surgery, Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital  
12-1 Shinkawadori, Kawasaki-ku, Kawasaki-shi 210, Japan  
(\*Present address : Kawasaki Municipal Ida Hospital)

We conducted a clinical evaluation of T-3262, a new pyridone-carboxylic acid derivative, in the surgical field.

T-3262 was administered to 24 patients with various surgical infections. The clinical effect was excellent in 3, good in 16, fair in 4 and poor in 1, with an overall efficacy rate of 79.2%. A high clinical efficacy was observed in infectious atheroma and abscess, the efficacy rates for these diseases being 100% and 80.0%, respectively.

Clinical efficacy rates classified by isolated organism were as follows: 50.0% (4/8) against Gram-positive cocci, 66.7% (2/3) against Gram-negative bacilli and 86.4% (19/22) against anaerobes. The eradication rate was 100%.

No side effects due to administration of T-3262 were experienced, but abnormal laboratory findings occurred in 2 cases as elevation of GOT and GPT.